

学校だより

令和6年1月10日

# ふれあい

No. 10

編集発行

上越市立春日小学校

校長 田邊 道行

謹んで新年のご挨拶を申し上げるとともに、このたびの能登半島地震により被災された方々、そのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。上越市においても、被害の大きい地域があります。被災された皆様の今後の生活の安全と、一日も早い復興をお祈りいたします。

学校では、元日の夜から翌2日の朝まで、児童やご家族の皆さんが地震の被害に遭わなかったか安否確認の調査を行いました。インターネットを通じて調査をし、回答のなかったご家庭には電話で確認をさせていただきました。情報をすぐに伝え合うことができ、2日の午前11時には全員が無事であることを確認することができました。情報を速く伝えることができるというのは、素晴らしいことです。一方で、情報を少し遅らせて伝えるものがあります。年賀状です。3学期の始業式では子どもたちに年賀状の話をしました。

私は、今から23年前、2001年の年賀状に、深い思い出があります。2000年の8月に引っ越しをしたので、新しい家で迎える初めてのお正月でした。ただ、2000年の2月に祖母が亡くなり、年賀欠礼の連絡もしてありましたので、2001年には私のところに年賀状が届くことがないはずでした。

ところが、元旦に玄関に行くと、私宛ての年賀状が2通届いていたのです。よく見ると見覚えのある懐かしい字でした。差出人を見て驚きました。なんとそれは、その9年前1992年に既に亡くなっていた私の父からの年賀状だったのです。もう1通は、母からの年賀状でした。

実は、1985年、今から38年前、茨城県つくば市で、「科学万博つくば'85」が開催されました。多くの人が科学の未来をテーマにした万博に行きました。もしかしたら、未来にはフィルムを使わないカメラができているのかもしれない、もしかしたら一人一台の電話機を持ち歩く時代がくるのかもしれない、などと未来のことをいろいろ想像しながら、たくさんの方が集まりました。その科学万博で、「21世紀への年賀状」というイベントがあったのです。そこで、私の父と母が私宛てに年賀状を書き、それが16年の時を超えて、私の手元に届いたのでした。

引っ越して最初に届いた年賀状が亡くなった父からだったなんて…感動の元日でした。宛て先は、引っ越し前の住所でしたが、引っ越しをしてから1年経っていないため、新しい家に転送されてきたのです。1年違えば、届きませんでした。

母からの年賀状には、「結婚して子どもが生まれているでしょうね」と書かれていました。2001年、正にそのとおりになっていました。父からの年賀状は、父らしいものでした。

父は、亡くなる前に3つのことを心配していました。一つは病気の祖母のこと、二つは道路ができることによる引っ越し、三つは私の結婚です。父の最期の枕元で、「あとは任せて」と約束したことを覚えています。そんな父からの年賀状には、実はメッセージが何も書かれていなかったのです。きっと、万博の7年後に自分が亡くなっていることは、予想もできなかったのでしょう。何か一言でも書いてくれればよかったのに…としましたが、メッセージのない年賀状が届いただけでも、私にはとても幸せな出来事でした。



数年が経ち、古くなった年賀状を捨てようとしたときに、2001年に届いた父の年賀状を見付けました。メッセージのない年賀状と思い、裏返して見ると、なんとそこにメッセージが書かれていたのです。ただ、父の字ではありません。たどたどしい幼い子どもの字です。きっと私の妻が、まだ幼い娘に書かせたのでしょう。年賀状には、「ありがとう」と書かれていました。たった5文字のメッセージに、私は涙が止まりませんでした。その「ありがとう」の言葉を私は父からのメッセージとして受け止めたからです。思えば、父が心配していた3つのことは2000年に全て乗り越え、解決していたのです。父からのメッセージは、子どもの字を通して私に届いたと感じました。

さて、38年前のつくば万博で一番売れたお土産は、テレホンカードでした。その頃には想像できなかつたくらいに情報をすぐに届けることができる時代となり、当時に比べれば、私たちは、今、すごい未来で生きていることとなります。

ただ、伝える方法や速さは変わっても、どんなにネットワークが発達しても、変わらないものがあります。それは、メッセージを送る人がいれば、「メッセージを受け取る人がいる」ということ

です。インターネットの向こう側にも、必ず人がいます。メッセージを送るときには、受け取る相手のことを、しっかりと考えることが大切になります。そして、そのメッセージを受け取る人も、相手の気持ちを想像し、よく考えて受け止めることが大切です。きっと、これからの時代は、世界の様々な人々ともっと手軽に話ができるようになることでしょう。どんな時代になっても、気持ちを正しく伝え、正しく受け止める力を身に付けて、周りの人々とよりよくかかわることができるようになりたいものです。

さて、令和6年（西暦2024年）の干支は、甲辰となります。春の暖かい日差しが大地全てのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年になりそうだということです。元日から、怖い思い、辛い思いをされた方も多くいらっしゃると思いますが、被災地の情報やメッセージから思いをしっかりと受け止め、成長と変化を目指して一步一步前進したいと考えます。



# 2年生かがやき学年



みんながキラキラ「かがやき」 そだてよう 見つけよう



「夏野菜のように冬野菜も育てたい！」と始めた、冬野菜作り。風の強い日や雪の降る日も、お世話や観察を続けました。

キラキラかがやく野菜を収穫し、「感謝の会」も行いました。お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えました。

野菜の大切さを実感できた活動でした。



# 5年生よつば学年

**みとめあい たかめあい まなびあい かかわりあい** ~4つの「あい」で幸せの葉を広げよう~

昨年の5月に田植えを行った「よつばのかがやき」。収穫を前に、大切な米を害虫や動物から守る方法を自分たちで考え、かかしや柵を作ったり黒酢をまいたりしました。そして10月には、地域の方にお手伝いいただきながら鎌で稲刈りを行い、たくさんのお米を収穫することができました。



収穫したお米をどうするか、子どもたちと話し合う中で、「販売をしてよつばのかがやきのよさを多くの人に知ってもらいたい」という声が多く出ました。各学級で販売場所を決め、「よつばのかがやき」のよさを知ってもらうために何が出来るかを考えながら、準備を進めました。当日は事前に決めた役割分担で、準備をした手作りのチラシを配布したり、お客さんに声をかけたりしながら、一生懸命「よつばのかがやき」のよさをアピールしました。多くの地域の方に来ていただき、用意してあった「よつばのかがやき」を全て売り切ることができました。

